











感染症に気をつけよう!

2015年【1月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明
インフルエンザ	 流行	 増加	流行が急激に拡大して、昨年より5週間早く12月下旬に注意報が出ました。すでに警報レベルの区もあります。【11月号】
RSウイルス感染症	 流行	 横ばい	2009年以來最も増えています。乳幼児や免疫力が弱いと重症化し易いです。予防には手洗いが大事です。【10月号】
感染性胃腸炎	 やや流行	 やや増加	例年より少ないですが、集団感染もあり、今後も増加が予想されます。手洗い・消毒・加熱で防ぎましょう。【12月号】
伝染性紅斑(リンゴ病)	 やや流行	 やや増加	万一、妊婦が感染したら、医師に相談し胎児の状態をよく調べるのが重要です。予防には手洗いが大切です。【6月号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	 やや流行	 やや増加	風邪に似ていますが、腎炎等の合併症もみられ、抗生物質が必要な感染症です。手洗いで予防しましょう。

【 】は解説付き既刊号 ← クリック

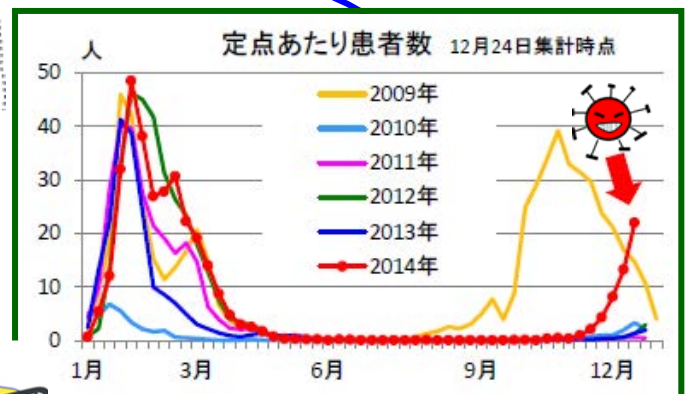
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



■ 患者の年齢をみると20歳未満の増加が大変目立ち、中でも6~9歳が最も多くなっています。



■ 重い合併症であるインフルエンザ脳症が今シーズン初めて報告されました。入院例も大幅に増加していて重症化に注意が必要です。



■ もし症状が出てしまったら他の人にうつさないよう、



咳エチケットを守り
早目に受診しましょう。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】